

# 摂食嚥下障害学演習

[演習] 第3学年 前期 必修 1単位

《担当者名》○飯泉智子 i-zumi@hoku-iryo-u.ac.jp 飯田貴俊

## 【概要】

摂食嚥下リハビリテーションの介入、評価、訓練の実際を学ぶ。

## 【学修目標】

<一般目標>

摂食嚥下リハビリテーションにおける基本的な介入計画を立案する。評価、訓練を実施する。

<行動目標>

1. 症例の問題点を整理し、優先事項を決定する。
2. 複数の情報から、現象の背景となる機能障害仮説を立てる。
3. 摂食嚥下リハビリテーションの介入計画を作成する。
4. 摂食嚥下関連器官の運動および感覚の特徴を抽出し、適切な表現で記述する。
5. 摂食嚥下機能検査を適切に行う。
6. 摂食訓練（直接訓練）、基礎訓練（間接訓練）の基本的治療手技を実践する。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	演習の進め方の説明 評価、治療に関する知識の振り返り	飯泉智子
2	摂食嚥下リハビリテーションの概要	症例で学ぶ摂食嚥下リハビリテーションの概要を学ぶ	飯泉智子
3	評価	情報収集、機能検査、スクリーニング検査等	飯泉智子 飯田貴俊
4	評価	情報収集、機能検査、スクリーニング検査等	飯泉智子 飯田貴俊
5	評価	情報収集、機能検査、スクリーニング検査等	飯泉智子 飯田貴俊
6	評価	情報収集、機能検査、スクリーニング検査等	飯泉智子 飯田貴俊
7	評価	情報収集、機能検査、スクリーニング検査等	飯泉智子 飯田貴俊
8	評価	画像所見の読影（VF読影）	飯泉智子
9	評価	画像所見の読影（VF読影）	飯泉智子
10	評価	症例で学ぶ評価のまとめ	飯泉智子
11	訓練	治療（実施とプログラム）に関する知識の振り返り	飯泉智子
12	訓練	基礎訓練、摂食訓練	飯泉智子 飯田貴俊
13	訓練	基礎訓練、摂食訓練	飯泉智子 飯田貴俊
14	訓練	基礎訓練、摂食訓練	飯泉智子 飯田貴俊
15	まとめ	症例で学ぶ摂食嚥下リハビリテーションの実際	飯泉智子

## 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

課題40%  
定期試験60%

**【教科書】**

才藤栄一 他 監 「摂食嚥下リハビリテーション 第3版」 医歯薬出版 2016年

**【参考書】**

藤島一郎 監訳・著 「MASA日本語版嚥下障害アセスメント」医歯薬出版 2014年

**【備考】**

演習科目は臨床的態度、評価、治療手技の習得の場であり、毎回、必ず出席することを前提としている。やむを得ず欠席する場合は、担当教員のメールアドレス宛に事前に連絡し、対応方法について指示を受けること。

摂食嚥下障害学で使用した教科書、配付資料を持参すること。

画像などの特殊教材を多用するので、受講方法に注意し、指定された物品を必ず持参すること。

担当者連絡先

飯泉智子：i-zumi@hoku-iryo-u.ac.jp

**【学修の準備】**

摂食嚥下障害学で使用した教科書、配付資料など参照し、事前学習課題に取り組むこと。(20分)

科学的文章作成能力の向上に努めること。(20分)

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

(DP2) 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

(DP3) 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

(DP4) 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

**【実務経験】**

飯泉智子（言語聴覚士）

飯田貴俊（歯科医師）

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関での実務経験を活かし、摂食嚥下障害のリハビリテーションに関する基本的知識および実践について講義する。